



令和4年3月発行  
新村地区地域学習テキスト「あたらしの郷」

《編集》  
新村地区地域学習テキスト編集委員会  
松本市新村2179-7（新村公民館内）  
電話 0263-48-0375  
FAX 0263-40-1625  
メール niimura-k@city.matsumoto.lg.jp



メールアドレス  
二次元コード

委員長 関 通喜

委員 長岡 壽 根橋 信水  
丸山 盛榮 岩間 瀧太郎  
山下 陽一 関 成任  
山口 茂 花村 信  
川合 文明 手塚 義明

事務局 高山 芳伯 新村 芳男  
太田 正太郎

《印刷》  
（株）プラルト

この地域学習テキストは、誰にとっても読みやすい  
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。



小学校	年	組
名前		



# 新村地区地域学習テキスト あたらしの郷

新村地区地域学習テキスト編集委員会



## はじめに

みな にいむらちく し  
皆さんは新村地区のどんなことを知っていますか？

新村地区と聞くと、「新しい村だから最近誕生した歴史の浅い地区？」と思う人も多いと思いますが、そうではありません。実は歴史が古く、昔から稲作を中心とした農業によって、地区は大きく発展してきました。

このテキストは新村地区をより深く知ってもらうために、小学生から大人までもが学べる内容となっています。

現在、新村地区に残る多くの財産を、若い世代の皆さんに引き継いでいけるようにと強く願っています。勉強や町歩きなど、このテキストを活用してみましょ。きっと新しい新村の魅力を見つけられるはずです。

## 物ぐさ太郎の紹介

物ぐさ太郎は御伽草子に登場する話の一つです。新村地区内にも、物ぐさ太郎にまつわるお話やお祭りなどがあります。

2

そんな太郎が村人の願いを受け入れて、村人に代わり都での仕事をするため、京都に行くことになりました。京都での太郎は、ものぐさ者から一変して別人となり、ひたすら仕事に励み、立派に仕事をしました。



4

やがて太郎は信濃の中将となり、故郷に錦を飾りました。恩を忘れなかった太郎は村人に領地を与え、豊かな国づくりに努めました。今も新村の人々はこの感謝を忘れず、これからも「ものぐさ太郎」をしのび、称え、伝承していきます。



1

むかし、ものぐさ太郎という男の子がいました。その子はなまけ者で村人からもらった餅を落としても、寝転がったまま拾おうともせず、餅を拾ってくれる人が来るのをひたすら待つだけの「ものぐさ者」でした。



3

そして太郎は和歌にも才能を現し、大変な評判となり、ついには天皇にも認められ、太郎のことを調べさせてみると、仁明（にんみょう）天皇の皇子が善光寺の如来様にお参りして生まれた子供で、太郎は高貴な人だと解りました。



「ものぐさ太郎祭り実行委員会」作成  
『ものぐさ太郎クリアファイル』より引用

# 目次

## 1 新村ってどんなところ？

新村地区の概要……………5・6  
 世帯数と人口のうつきわり・新村の町会……………7  
 新村の自然（地理・生物・気候）……………8・9・10・11

## 2 新村地区のあゆみは…

新村のむかし……………12・13・14  
 学校のうつきわり……………15・16  
 交通のうつきわり……………17・18・19  
 産業のうつきわり……………20・21・22

## 3 新村の公共施設・地域諸活動は…

新村地区地域づくりセンター・新村公民館……………23  
 福祉ひろば・子どもを育む活動・ものぐさ会……………24  
 各種団体の活動……………25

## 4 新村の文化財・祭りなどは…

神社……………26  
 寺院……………27  
 祝殿……………28  
 史跡・遺跡・遺物……………29  
 石造物……………30  
 ものぐさ太郎音頭・ものぐさ太郎祭り……………31  
 新村音頭……………32

## 5 そのほか

松本大学との交流……………33  
 新村地区マップ……………34・35

# 1 新村ってどんなところ？

## 新村地区の概要

新村地区は、古来、御伽草子に見られる「物ぐさ太郎」の伝説の舞台である“あたらしの郷”の地と、伝えられています。

江戸時代の南新村、東新村、上新村、北新村、下新村の5か村が明治7年（1874）に合併して新村が発足しました。その後、昭和29年（1954）8月に松本市と合併して、現在に至っています。

新村地区は、松本市のほぼ中央にあり、東経137度54分、北緯36度13分（旧新村役場跡の標柱）に位置しています。標高は約615メートル前後、北側を流れる梓川がつくった扇状地と河岸段丘にあり、西から東に向かって緩やかに傾斜しています。

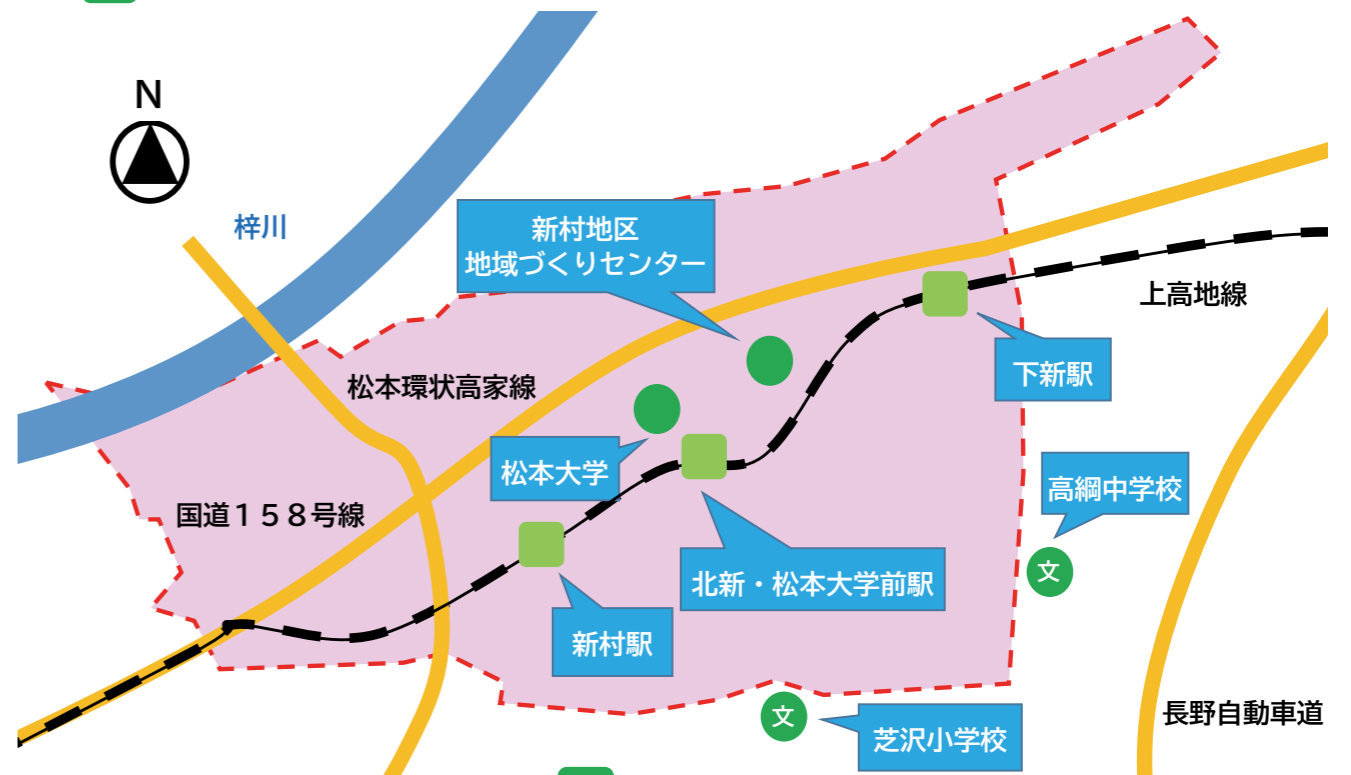


↑ 地区の位置



面積は、約4.59平方キロメートル、東西約3.4キロメートル、南北約1.9キロメートル、新村堰、芝沢堰、栗林堰、樽木川とその分水による豊富な水に恵まれた、水田が広がる豊かな田園地帯です。

↑ 地区からの眺望（美ヶ原方面）



↑ 地区全体図

地区を東西に、国道158号線とアルピコ交通上高地線が、西側の地域を南北に、主要地方道松本環状高家線（県道48号線）が走り、交通の要衝となっています。また、統合によって小学校も中学校も、その跡地を残すのみですが、地区の中央には、地域づくりセンター（出張所・公民館・福祉ひろば）、JA新村支所、新村保育園、松本大学・松商短期大学部のキャンパス、児童センターなどがあります。



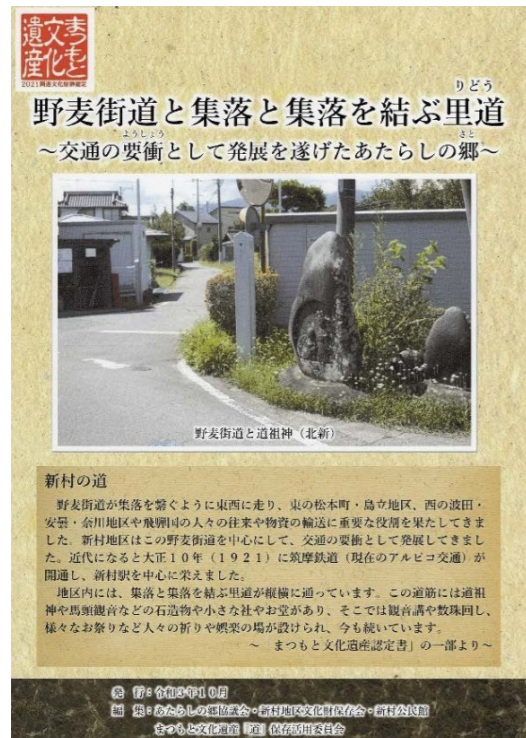
↑ 区内を走るアルピコ交通上高地線



↑ 地域に根差した教育を行う  
松本大学



↑ 新村堰上新分水工



↑ まつもと文化遺産パンフレット

新村地区のさまざまな文化財は、令和3年（2021）“まつもと文化遺産”に「野麦街道と集落と集落を結ぶ里道～交通の要衝として発展を遂げたあたらしの郷～」として、認められました。その保存と活用による地域づくりが期待されます。



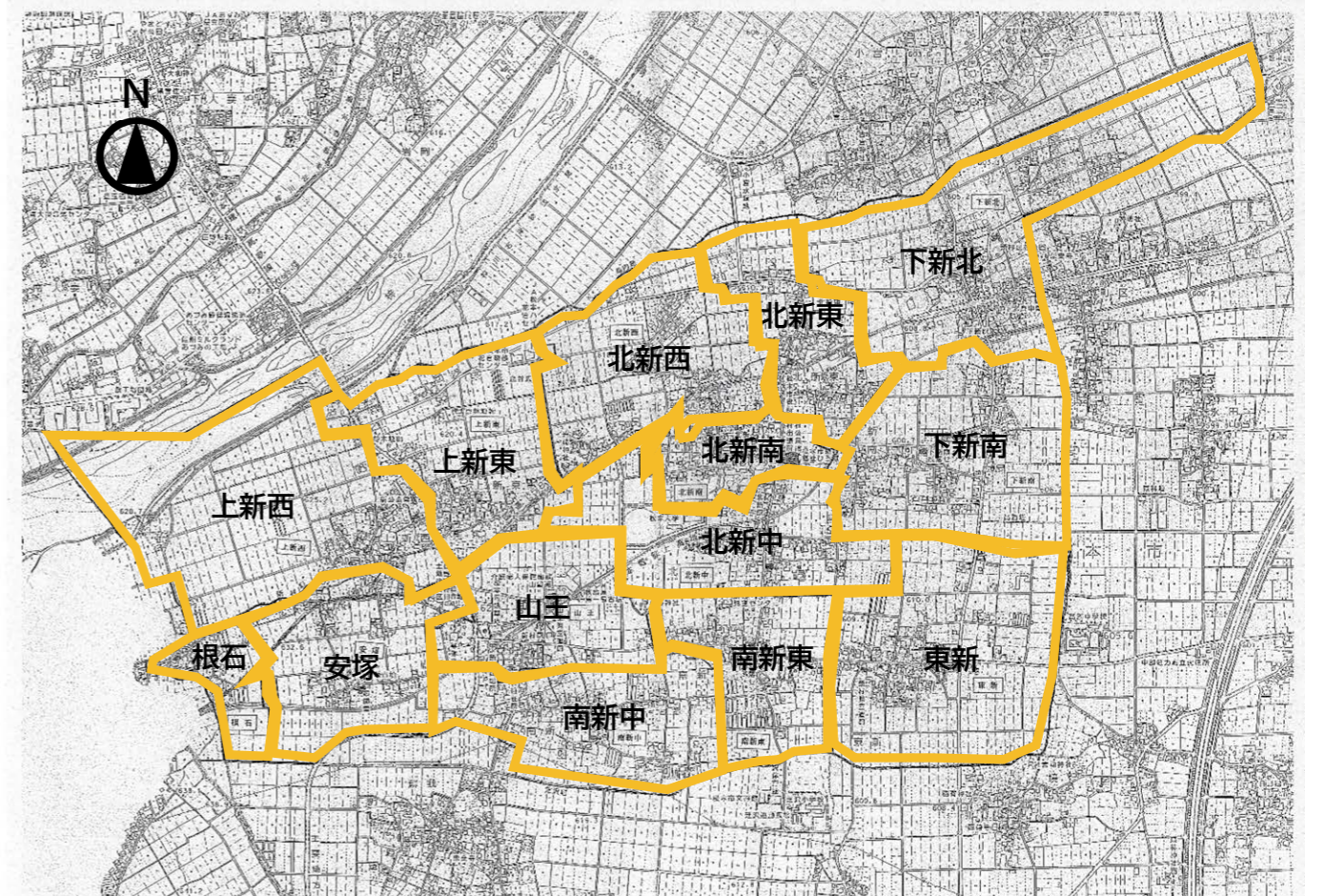
↑ ねいし どうひょう どうそじん  
根石の道標と道祖神

## 世帯数と人口のうつきわり

年 (西暦)	明治9年 (1876)	大正9年 (1920)	昭和29年 (1954)	昭和40年 (1965)	平成10年 (1998)	令和4年 (2022)
できごと	新村の発足 2年後	第1回 国勢調査	松本市と合併	高度経済成長期	長野冬季 オリンピック	1月
世帯数 (単位:世帯)	406	530	608	645	1,123	1,315
総人口 (単位:人)	1,859	2,685	3,313	2,991	3,638	3,164
男 (単位:人)	939	1,338	1,617	1,395	1,789	1,525
女 (単位:人)	920	1,347	1,696	1,596	1,849	1,639

## 新村の町会

かみにいひがし かみにいにし ねいし やすづか さんのう みなみにいなか みなみにいひがし ひがしにい きたにいなか きたにいみなみ きたにいにし  
 上新東、上新西、根石、安塚、山王、南新中、南新東、東新、北新中、北新南、北新西、  
 きたにいひがし しもにいみなみ しもにいきた  
 北新東、下新南、下新北の14町会に分かれて活動しています。

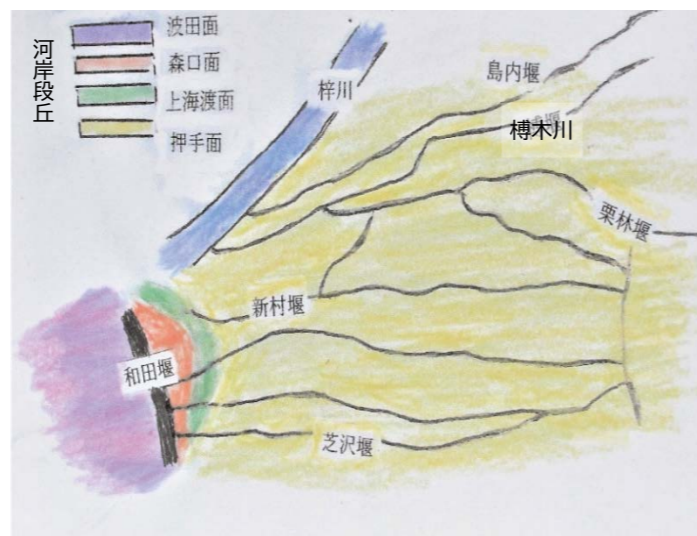


↑ 町会の位置

## 新村の自然～地理的特徴～

### 1 扇状地と灌漑用水

新村は梓川による浸食、運搬、堆積の働きで形成された波田西部を扇頂に松本市街地を扇端とする大扇状地の中程にあります。大扇状地は波田地域に残る4つの河岸段丘（波田面、森口面、上海渡面、押出面）からなっています。その段丘面の堆積物は新村地域に入ると、大部分は最も新しい段丘面（押出面）の堆積物に覆われています。



↑ 新村地域の河岸段丘と用水

主に扇中央部分を住民集落が占め、周辺部および扇端部に向かって農耕地が広がっています。扇状地は砂礫の厚い堆積層で、山地に降った雨は地下に潜り伏流水となり、扇端部で湧水となり出現します（松本市街地）。昔の新村地域では水田開発に灌漑用水の確保で大変な苦労があったと言われています。現在は、先人の努力の結果上図のような、大きな灌漑用水路（新村堰、芝沢堰、栗林堰、樽木川）が開発され、これらの水路からはさらにU字溝の小川が分水され、豊富な用水が確保されています。

### 2 天井川

新村の堰は流路勾配が緩やかなために上流から運ばれた砂礫が川底に堆積します。農業や生活用水の確保のため、砂礫を除去する作業が行われ、それらは川の縁に積み上げられ、川縁は高い堤防になりました。それでも川床は次第に高くなって周辺の平野部より高い川になります。このような川を天井川と言います。昔は天井川が各所にありました。昭和53年（1978）頃に行われたほ場整備事業でなくなり、芝沢小学校や下新南区にその一部の名残りがみられます。



↑ 残っている高綱堰の左岸の一部



↑ 残っている芝沢堰の一部

## 生物相の変化（少なくなった生物と増えてきた生物）

### 1 水田で減少した生物

#### (1) 動物（水生昆虫・トノサマガエルなど）

トノサマガエルが激減した理由は、水田が一年ごとに麦畑や豆畑に代わり、除草剤などでオタマジャクシの育つ場所や、餌になるものが少なくなったからです。アメンボウは足の毛やそこから分泌する油の表面張力で軽快に泳ぐことができます。最近の水は界面活性剤（洗剤・石鹸など）が含まれ表面張力が弱くなるために泳げなくなり溺れてしまい、アメンボウは少なくなっています。



↑ トノサマガエル



↑ オタマジャクシ



↑ アメンボウ

#### (2) 植物（オモダカ、タカサブロ、キカシグサ、コナギなど）

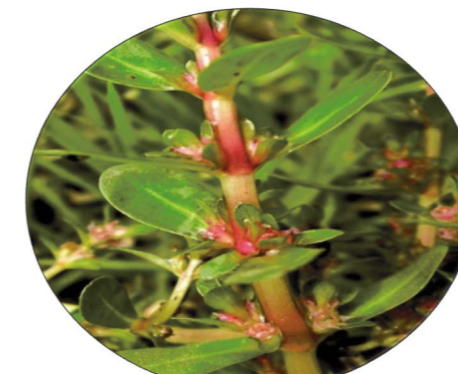
水田の雑草（オモダカ、タカサブロ、キカシグサ、コナギなど）は、除草剤の利用で激減し、重労働の「田の草とり」の作業はなくなりました。



↑ オモダカ



↑ タカサブロ



↑ キカシグサ



↑ コナギ

## 2 田畑の畦畔の植物相が変化した

昭和20年（1945）以降、外来植物であるイネ科のイヌムギ、カモガヤ、ナガハグサなどが牧草として輸入され、激増しました。増えた原因のひとつには草刈り機の普及があります。草刈りの後、分裂組織の位置の関係で、広葉雑草よりイネ科の方が生長が早いです。そのため、広葉雑草は伸長生長競争に負けてしまうのです。



↑ イヌムギ



↑ カモガヤ



↑ ナガハグサ



↑ 除草剤散布の多い土手は、除草剤で地上部は枯れるが、スギナは根茎が残る。



↑ 何回草刈りをして、生長が早いイネ科の雑草は繁茂する。

## 3 気象現象と植生

大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）は光合成に不可欠な物質ですが、増加し過ぎると温室効果ガスとなって地球温暖化の原因となり、植生ばかりでなく、様々な悪影響を地球上にもたらしています。最近、今までに見慣れない野草が目立つようになりました。例えば、マルバルコウ、バラモンジン、コセンダングサなど、新村のような比較的低温期間の長い地方にも、これらの熱帯や亜熱帯に生育する植物が繁茂するようになったのは温暖化の一例と言えます。



↑ マルバルコウ



↑ バラモンジン



↑ コセンダングサ

## 新村の気候

新村の地は、四方を高い山に囲まれた松本盆地（標高600メートル前後）の中の平坦地にあります。支所の緯度は北緯36度13分の位置にあります。したがって、松本盆地の気候がほぼ新村の気候と考えてよいでしょう。その新村の気候のおもな特徴をあげれば、

- 1 標高が高く冷涼。
- 2 春先は乾燥し、南西の風が強く吹く。
- 3 一日や一年のうちで気温差が大きい。
- 4 冬は降雪量が少なく乾燥して寒い。春先（3月）に意外と雪が多い。
- 5 年間の降水量は少ない。（5・6・7・9・10月は比較的降水量が多い）

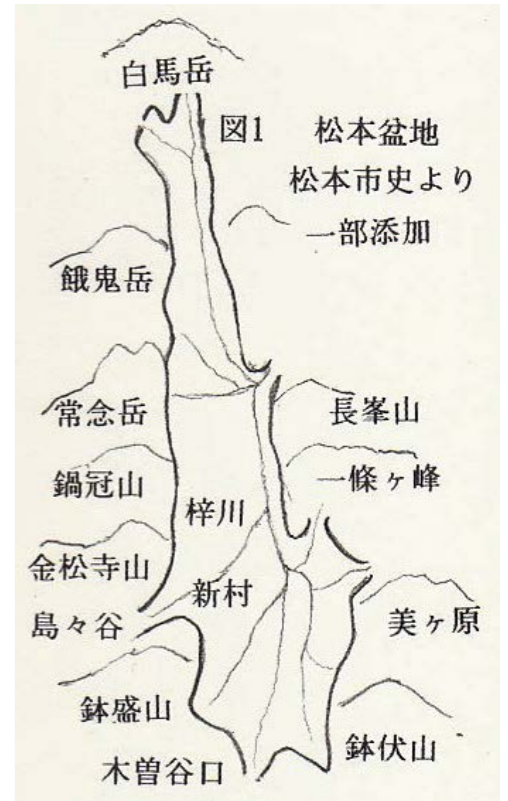
以上のようなことなどが言えます。この頃は気候変動の出現が多くみられます。

## どうしてこんなに大雨が降り、災害が起こるのでしょうか？

新聞やニュースで「数十年に一度」「経験したことのない大雨」「線状降水帯で大雨」「熱波で山火事」「大気の川 2000キロメートル」などの言葉が盛んに出てきています。私たちは今気候変動に直面し、今までにないような災害が目の前で起こってきています。この気候変動をより極端にしたのは、地球温暖化ガスとされています。人が今までしてきたことが、大気や海、陸地を温暖化にしてしまったのです。今世界では地球温暖化ガスの出す量を減らそうと、さまざまな運動・取り組みが始まっています。私たちも一人一人が身の回りでできることを見つけ、すぐにでも取り組んでいきましょう。このことが地球を守ることに繋がります。



↑ 令和3年（2021）8月大雨による梓川右岸堤防浸食

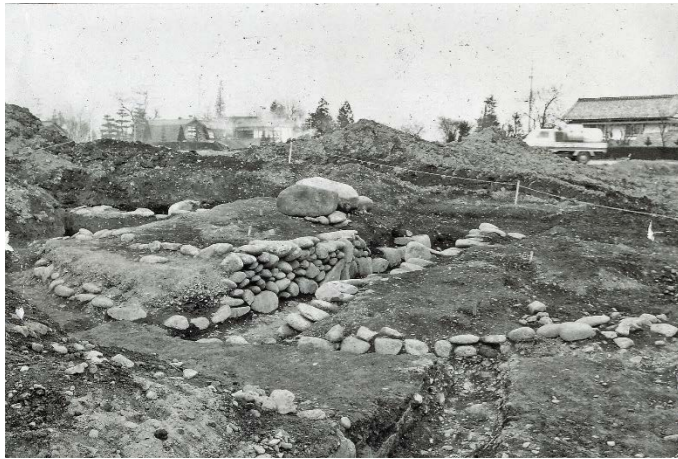


↑ 松本盆地

## 2 新村地区のあゆみは…

### 新村のむかし

新村にはいつ頃から人が住み始め、ムラはどう変わってきたのでしょうか？



#### 原始時代・古代

今から約5万年前～約1200年前頃(旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代)新村地区では、人が生活した跡(遺跡)がみつかっていませんので、住みついていたかはわかりません。近くの地区では、生活の跡がみつかったので、これからの調査でみつか

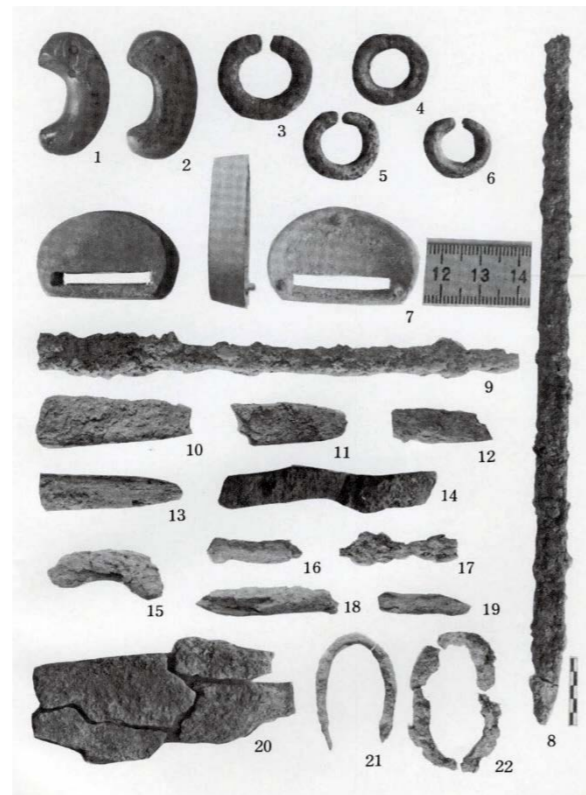
↑ 安塚古墳群 第8号墳の発掘の様子 れば、住んでいたことがわかります。

古墳時代の終わり頃(7世紀後半～8世紀前半)の古墳群がみつかりました。安塚古墳群と秋葉原古墳群の2つです。この墓に葬られた人はムラの有力者(財力・権力・開発力など力を持った人)でムラの背後の丘や開拓していない土地にムラの墓地として古墳を造りました。

古墳といっしょに出てきた物(遺物)は、金環・帯金具・直刀・勾玉などです。また、須恵器の土器、鉄器などや、墓址群などもみつかりました。秋葉原古墳群は安塚古墳群と一帯のものと考えられます。有力者を長とする小さなムラ(荒田郷?)ができ始めてきていたと考えられます。



↑ 移築復元した秋葉原第1号墳



↑ 安塚8号墳の出土遺物(金環・帯金具など)

## 中世・平安時代・鎌倉時代・室町時代…大きなムラから新たな領主が

中世の8世紀後半から15世紀後半(今から約600年前)頃の遺跡(松本大学周囲)が発掘され、ムラのとや生活の跡などがみつかりました。約1000年前の10世紀後半から11世紀前半頃の、小さな掘立柱建物址や碁盤の目のように掘られた用水路(区画溝)が確認されました。区画溝による領主層の館とわかりました。

11世紀後半から13世紀前半頃の竪穴住居址や掘立柱建物址、ピット群(穴)・土器(青磁や白磁など)、土坑(墓穴)などが掘り出されました。大きな力をもった領主層とムラ人が住んでいたことがわかりました。

13世紀後半から15世紀後半(鎌倉時代)には、人工的な方形区画の開拓地に用水路を引くことにより開発された(条里の開発)ムラであるとわかってきました。そして市内最大の大きさの大型掘立柱建物を持ち、区画溝を持った1軒の屋敷地を構えた新たな領主層(有力者)が出て、大きなムラ(大井郷へ?)となっていたと考えられます。



↑ 下新・東新の条里的区割



↑ 新村遺跡第6号掘立柱建物址(大型)



↑ 近府春近領の位置図

### 近府春近領としての新村南方…開発領主の公領

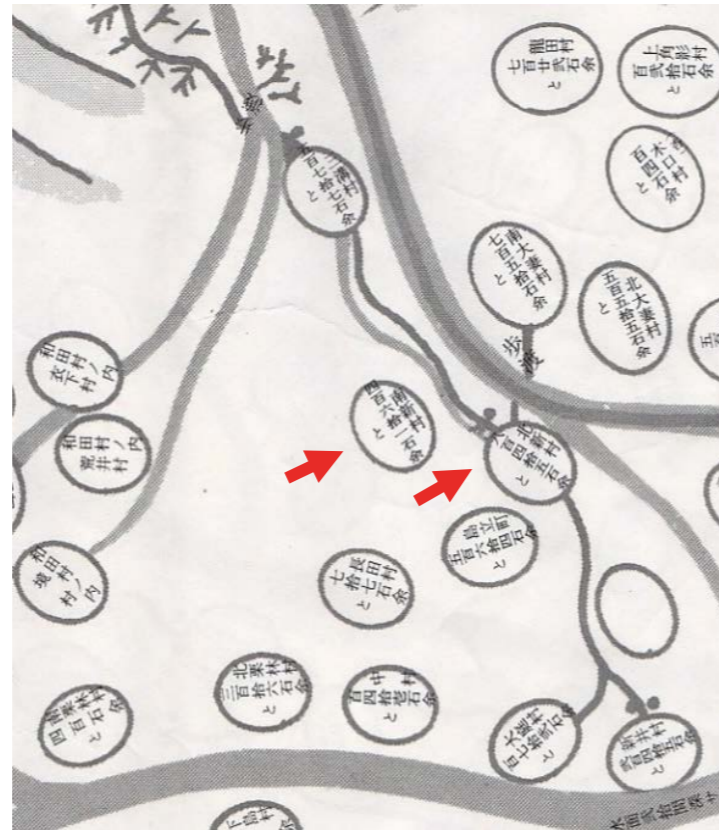
「信濃国筑摩郡春近領塩尻東西・小池東西・新村南方…」と応永7年(1400)の文書に出てきます。新村南方は、現在の南新と東新です。左の図をみると、国府があった松本近辺に置かれていたので「近府春近領」といいました。新村南方は諏訪下社にも属していて、御柱・若宮造営役などをつとめており、新村北方もありました。天正10年(1582)の頃から2つのムラに分かれていたと考えられます。

近世・近代・江戸時代・明治時代～昭和時代の新村

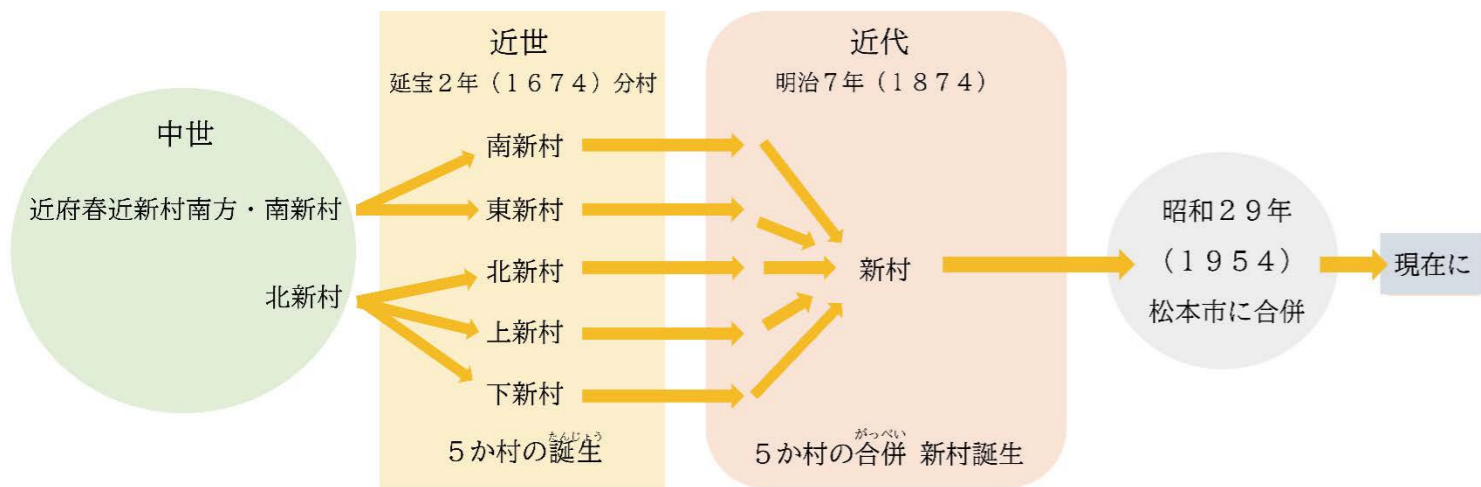
正保4年(1647)の国絵図をみると、新村は南新村(461石余)と北新村(845石余)の2か村(赤矢印)のみです。

近世は、松本藩嶋立組(今の島立・新村・波田・神林の一部の地)の中にありました。

下の略図をみると、延宝2年(1674)に東新村は南新村から、上新村と下新村は北新村から分村していることがわかります。新たな田畑などの開発により検地を行い、村の体制ができあがり、分村し立村となりました。5か村の誕生です。5か村は、明治7年(1874)まで続きます。その後、5か村が一つになり新村になりました。



正保4年(1647)の国絵図より



近世・近代の新村のあゆみ略図

さて、小野神社と岩崎神社は、いつ造られたのでしょうか。松本藩編集の書『信府統記』によりますと、両神社は仁寿3年(853)頃(平安時代はじめ)に造られたと伝えられています。この頃は秋葉原古墳群(遺跡)や新村遺跡の掘立柱建物址に示されたように小さなムラができ始め、区画溝による領主層の館ができる時期と重なります。新村遺跡をはさんで、両神社があることは興味深いことです。

学校のうつりかわり



新築当時の新村小学校校舎(大正4年頃)と校歌(作詞:浅井湧)

新村に小学校はいつからあったの?

江戸時代には、寺子屋や塾が子どもたちに読み書きなど教えていました。明治5年(1872)「邑に不学の戸なく 家に不学の人なからしめんことを期す」と学制発布があり、翌年、南村の法伝寺跡に「作新学校」が開校されました。大正4年(1915)には「新村小学校」の新校舎が落成し、閉校までに3,800名ほどの卒業生を送り出しました。

時代	明治時代			大正時代	昭和時代					
	6年(1873)	21年(1888)	25年(1892)	4年(1915)	16年(1941)	20年(1945)	22年(1947)	29年(1955)	30年(1945)	46年(1971)
主なできごと	同年「新村学校」と改名される。	「新村尋常小学校」と改名される。	北新(現松本大学)の敷地に移転される。	立派な校舎で見学者が多く訪れた。 2階建、双塔は4階建の新校舎が落成される。	「新村小学校」が開校される。 学校発令のため、「新村国民学校」となる。	集団疎開する。 3月に、東京都世田谷区奥沢国民学校の学童が	太平洋戦争後、「新村立新村小学校」となる。	「新村が松本市と合併、 松本市立新村小学校」となる。	児童の完全給食が開始する。	「松本市立芝沢小学校」となる。 児童が減少し、新村と和田の両小学校が統合して、

小学校のうつりかわり



## 新村小・中学校のあとは何が建てられたの？

昭和52年（1977）松商学園短期大学が移転、開校しました。在學生が増加して手狭になり、移転先として最適な新村小学校跡に建てられました。

4年制大学設立の要望が高まり、平成14年（2002）4月に松本大学が開校しました。

現在は「新村小学校の跡」の記念碑はありますが、当時を偲ぶものは桜の木だけになってしまいました。



↑ 新村小学校跡の碑

## 中学校はいつからあったの？

昭和22年（1947）学校制度が「6・3制」に変わり、「新村中学校」が発足しました。

昭和28年（1953）新村、和田、島立の組合立「高綱中学校」が開校されました。

昭和29年（1954）松本市と合併して、「松本市立高綱中学校」となり、現在にいたります。



↑ 昭和30年頃の木造校舎の高綱中学校

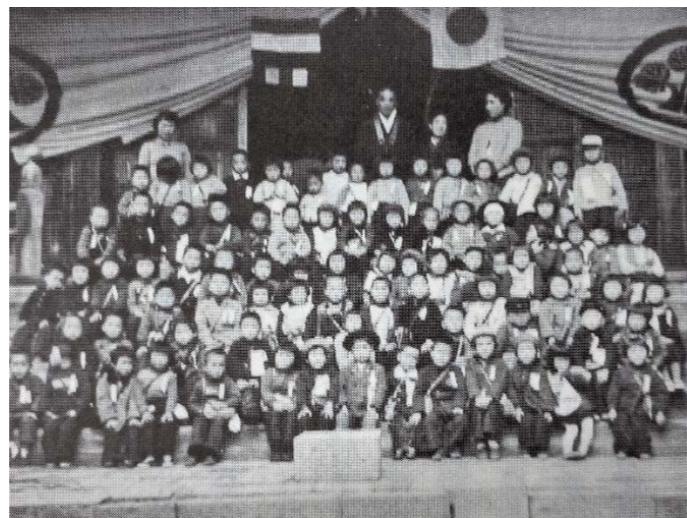
## 専称寺のところに保育園があったの？

昭和29年（1954）専称寺に新村保育園が開園されます。園児は80名ほどでした。

昭和36年（1961）4月に新村中央保育園として北新の現在地に開園されました。

開園当初の保育料は1日2回のおやつ代を含め、月額300円などと定めていました。

しかし、保育料では賄い切れず、同年11月に保育料が500円に改められました。



↑ 新村保育園 専称寺にて開園

## 交通のうつりかわり

### 1 道・橋

新村公民館で作成した「新村かるた」に「㊤ 曲がりくねり 村をつないで飛騨街道」とあります。飛騨街道（明治20年頃より野麦街道）は、松本と飛騨高山を結ぶ県道で、古くから信濃の国府（松本）と飛騨の国府（高山）を結ぶ重要な古道でした。曲がりくねった道は、道や川を碁盤の目のように張りめぐらし、計画的に田畑を開発したためと思われます。

曲がりくねった道では、荷車や馬車が通るようになると不都合が生じました。そのうえ県道といっても道幅9尺（2.7メートル）では広い道とはいえません。大正5年（1916）頃、旧野麦街道を残して新たに直道にする工事が始まりました。今の国道の前身です。新しい県道野麦街道の道幅は広げられ、直道となりましたが、年々自動車が多くなり、でこぼこの砂利道から砂埃が煙のように立ちました。国道158号が舗装されたのは、昭和41年（1966）頃でした。道路は自動車の増加により広げられ、舗装されるなど都合よくなりました。旧野麦街道の道筋は所々に残されています。

明治34年（1901）新村役場の「道と橋調べ」によると、中村道・高綱道らの『里道』（村で管理）が21道、里道に架かる橋が159橋。『耕道』（田んぼ道、利用者で管理、耕道の数不明）に架かる橋が94橋。『県道野麦街道』に架かる8橋をも合わせると261橋となり、大部分が木の橋でした。新村で管理する里道の内訳は、1等里道（主要な村道）が8道、2等里道が13道となります。それぞれの里道には、名前が付いています。このテキストの34・35ページの「新村地区マップ」で里道を調べてみましょう。

「新村かるた」に「㊤ 橋もない 昔の梓川 渡し舟」とあります。上新〜大妻間に渡し舟が通るようになったのは天保6年（1835）のことで、それ以前は人も馬も歩いて渡りました。



↑ 大型車も対面通行できる倭橋



↑ 北新東の三叉路  
左：中村道 右：野麦街道

明治40年（1907）に待望の倭橋が架かりました。木の橋のため大水がでるたびに傷みました。昭和34年（1959）に倭橋は、長野県一の長いコンクリートの永久橋となりました。

平成8年（1996）には架け替え工事で橋の幅が今までの2倍の12.5メートルとなり、大型車が対面通行でき、両側に歩道も付けられました。橋も車の普及と大きな関わりがあります。

## 2 地域の交通 島々線（上高地線）



↑ 島々線（上高地線）工事のようす 波田～島々間

新村地区には上高地線が走っています。わたしたちの生活に欠かせない上高地線は、いつ何のためにできたのでしょうか。

交通手段が「徒歩、牛馬」から大正期になると各地では鉄道の運行が始まりました。また、日本アルプスへの登山者の増加や、梓川水系での発電所建設の資材運搬など鉄道敷設は急務でした。そして、地域の人たちの生活が便利になることも大切なことで、これらが鉄道開通の背景でした。

### 島々線（上高地線）が開通するまで

地域の人たちの生活を便利で豊かにしようと、実業家の上條信は鉄道を敷くために動き始めました。

しかし、鉄道は地域の人たちの賛成がなければいけません。また、線路を敷く土地がなければできません。

大正4年（1915）から国に3回お願いをして、大正8年（1919）にやっと許可され、筑摩鉄道株式会社（現アルピコ交通）をつくり、開通へ向け動き出しました。



↑ 新村にあった本社で開業のお祝い行事

### 工事・そして開通

島々線の工事は大正9年（1920）から始まり、翌年には松本から新村までが開通、大正11年（1922）に島々駅まで、驚くほど短い時間で完成しました。

島々線が出来ると、新村駅の付近には料理屋・旅館・写真館、銭湯などが建ち並び、賑やかになりました。松本の街までわずか15分ほどで行けるようになり、米・リンゴ・生糸などもより「多く・早く・楽に」運べるようになりました。また、上高地や北アルプスなどへ観光や登山をする人にも便利となりました。



↑ 鉄道博物館（大宮）に 移管されたハニフ1号

### 島々線（上高地線）を敷いた上條信

わたしたちの暮らしに欠かせない上高地線は、新村の南新で明治17年（1884）に生まれた、上條信が中心になって敷きました。

信は小さい頃から、人のために役立つ生き方をしなさいと教えられて育ちました。優しくしっかりした考えをする青年に育った信は、大学を卒業する頃から、人のために役立ちたいと強く思うようになりました。

新村の村長や県会議員などを経験する傍ら、東筑電気株式会社をつくり、新村をはじめ梓川右岸の村に電気を引きました。他にも新聞社や映画会社など多くの会社をつくり、活躍しました。



↑ 人のために役立つ仕事をした上條信

### 島々線（上高地線）ができた後も

信はその後も地域のために働き、昭和26年（1951）に76歳で亡くなりました。信が力を尽くした島々線は昭和30年（1955）に上高地線と名前を変え、現在も地域の人を乗せて走り続けています。信が島々線（上高地線）を敷いてから令和3年（2021）で100年を迎えました。信は、頌徳碑（功績をたたえる碑）から今でも上高地線を見つめています。



↑ 新村駅東側にある頌徳碑

時代	明治			大正							昭和							
	17年 1884	36年 1893	38年 1895	2年 1913	4年 1915	5年 1916	9年 1920	10年 1921	11年 1922	13年 1924	3年 1928	20年 1945	21年 1946	26年 1951				
主なできごと	東筑摩郡新村で出生	松本中学卒業、早稲田大学予科入学	早稲田大学予科修了、新村へ帰郷	新村村長になる	長野県議会議員に初当選	東筑電気株式会社を創立	筑摩自動車株式会社とする	松本自動車株式会社を買取り、筑摩自動車株式会社とする	筑摩鉄道株式会社を創立	筑摩商事株式会社を創立	島々線松本～新村間開通	筑摩電気鉄道株式会社に社名を改称する	浅間線松本～浅間温泉間開通	筑摩電気鉄道の社長を辞任	衆議院議員に初当選	筑摩酒造株式会社の社長に就任	新村村長になる	新村の自宅にて逝去。（享年七十六歳）

↑ 上條信の年表



↑ 旧新村駅舎



↑ 現在の新村駅舎

## 産業のうつりかわり

### 1 農業

高度経済成長〔昭和30年（1955）～昭和48年（1973）〕は農村の新村に、さまざまな影響をもたらしました。安定した収入を求めて、農業の担い手の男たちが勤めに出るようになり、新村地区でも専業農家数が半分となりました。農業が主の兼業農家数はあまり変わりませんが、農業が従の兼業農家数は大きく増加しました。

### ほ場整備で水田農業と農村風景が変わった

水田のほ場整備は、農業担い手の変化のなかで農業の近代化を進め、大型機械の導入や協業化が必要となりました。それには、狭くて不整形な区画の水田を広くし、農道や水路を整備する必要があります。農家の理解を得るため、ほ場整備推進委員会は涙ぐましい努力を続けました。そして、農家の意向も固まり、昭和53年（1978）に「新村土地改良区」が発足し、新村地区の県営ほ場整備の工事が開始されました。一足早く発足した「和田・新土地改良区」は、昭和48年（1973）からほ場整備事業が行われ、和田と隣接する耕地も同時進行で施工されて行きました。昭和63年（1988）、巨額を投じた事業によって、狭く不整形な区画の水田が、広いほ場に生まれ変わり、農道や水路もきれいに整備されました。天井川（芝沢堰、高綱堰）の土手も取り払われ、景観が大きく広がりました。

このほ場整備に併せて、第2次農業構造改善事業や新農業構造改善事業を取り入れ、昭和53年（1978）に「和田・新ライスセンター」、「和田・新水稻育苗センター」が建設されました。昭和58年（1983）には「新村ライスセンター」が建設され、さらに集落の機械利用組合も設立。トラクター・コンバイン・田植え機などの大型機械の導入が進み、近代化・省力化への歩みが始まりました。



大型コンバインでの稲の刈取

また、農業近代化を後押しするため、農業技術の研究室、施肥改善のための土壌検査室、調理実習室や会議室を備えた「新村多目的研修センター」が昭和60年（1985）に設置されました。平成8年（1996）に新しい新村公民館が建設されるまでは、公民館活動の拠点としても利用され、今も盛んに活用されています。また、集落内の農事の話し合いやコミュニティを進めるための「集落センター」も設置され、町内公民館としても利用されています。

### 多様化する水田農業の担い手

ほ場整備後33年が経ち、高齢化や後継者がいないなどで農業の継続が困難な農家が増えました。農地を貸したい農家には「県農地中間管理機構」が賃貸借契約を仲介し、認定農業者（要件などを農業委員会が審査）が借り受ける制度によって、営農を進めています。また、農業機械化銀行や機械利用組合、農業法人などが農作業を請け負い、耕作が継続されています。

令和3年度現在、新村の認定農業者は、法人が3団体、個人が15人です（JA調べ）。



馬耕で水田を深く耕す北原昇（当時）

### 養蚕から野菜・花卉栽培へ

昭和30年代中頃から昭和40年代にかけて明治以来の養蚕をやめて、代わってスイカの栽培、カーネーションや洋ラン類の花弁栽培が盛んになってきました。近年は、ネギなどの野菜栽培の取り組みもみられます。

また、果樹園芸では、南新の波多腰邦男が、りんごの矮化栽培技術の開発に尽くされ、果樹産業の発展に貢献してきました。



農業法人が請け負う田植え作業

### 3度も、米作日本一に

食糧増産に取り組んだ太平洋戦争後、全国米作多収穫品評会（米作日本一コンクール）が行われました。

米作りに熱心であった新村では、昭和31年（1956）に上新の百瀬貫一が、昭和33年（1958）と39年（1964）に下新の北原昇が日本一に輝いています。



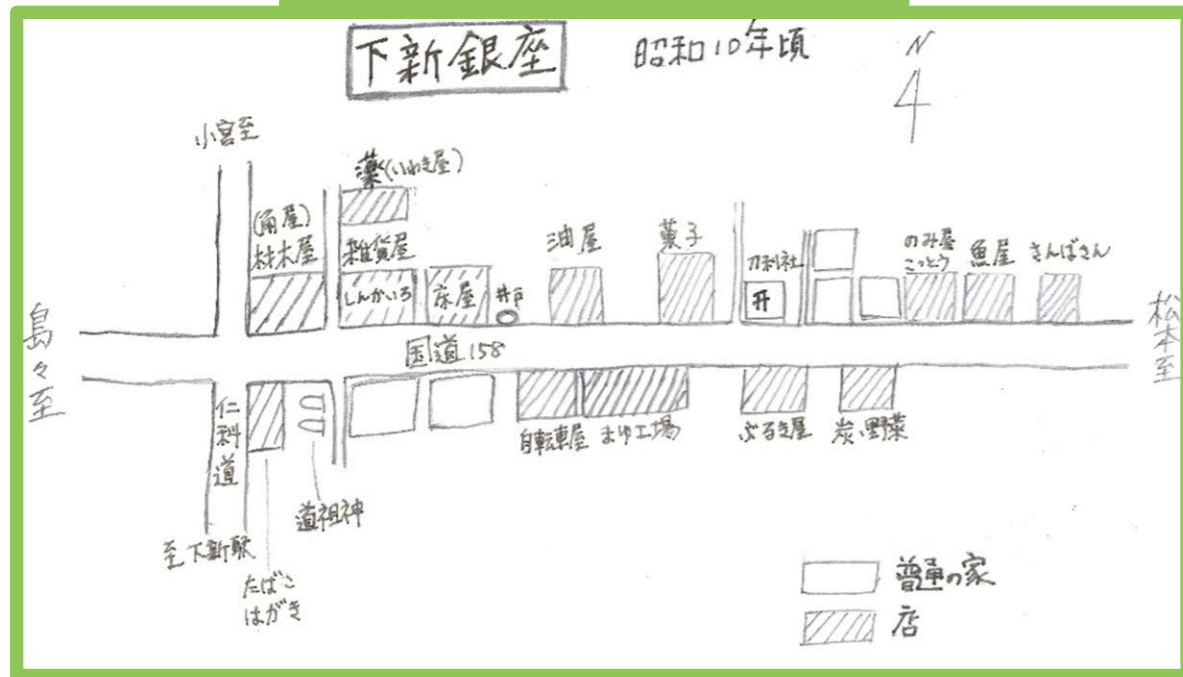
洋ランの栽培風景

## 2 商工業

明治10年(1876)代、新村を東西に通っている野麦街道に沿い、根石から下新まで小間物、古着・下駄・油・駄菓子・豆腐・青物などを扱う各種の店がありました。

大正期になると、筑摩鉄道(現アルピコ交通)の開通、野麦街道(現国道158号線)の改修などのインフラ整備が行われ、新村はこの地域の交通の要衝となり、近郷近在の人々の往来も多くなり、新村駅周辺や下新にはたくさんの商店ができました。新村駅周辺には自転車店、銭湯、理髪店、写真館、旅館、菓子・たばこ店、料理飲食店、薬店、肥料店など多くの出店がありました。下新駅の北、国道沿いにも下図のように多くの店が並び、下新銀座と呼ばれました。北新も学校・郵便局・銀行があり野麦街道沿いに菓子・雑貨(文房具)・酒・魚・洋品・桶屋などの店がありました。

下新銀座と呼ばれた当時の手書きの地図



↑ 平成26年(2014)下新北巡り資料より 北原 昇 の提供図の模写

そして、忘れてはならないのが、新村の製糸業です。明治期には大小12の製糸所がありました。大正期には「東の片倉、西の小野」といわれたほど繁栄した甲信明社(小野製糸)がありました。製糸業が明治・大正の日本の屋台骨を支えたのです。

現在、新村地区には料理飲食店、建設関係、小売店、製造業などがあります。医療機関は内科、小児科、整形外科、歯科、整骨院、整体院などがあり、介護施設も複数あります。



↑ 東新の小野製糸場のまゆ蔵 (平成29年に解体)

## 3 新村の公共施設・地域諸活動は…

### 新村地区地域づくりセンター

明治7年(1874)に新村役場が発足し、昭和29年(1954)に松本市に合併、「松本市役所新村支所」となりました。その後、昭和34年(1959)「新村出張所」となりました。昭和56年(1981)に松本市の「コミュニティ構想」により和田出張所と統合され「芝沢支所」となりましたが、平成9年(1997)に再び現在地に新村出張所が開設されました。平成26年(2014)4月に「新村地区地域づくりセンター」となりました。



↑ 新村地区地域づくりセンター

### 新村公民館

「新村公民館」は、昭和23年(1948)に開設され、人々の学び・交流の場づくりにより絆を深め、地域が活性化するお手伝いをしています。

公民館には以下の専門委員会が活動しています。

- 館報編集委員会 —— 公民館報の取材と編集
- 視聴覚委員会 —— 文化財や地域の記録・撮影・保存
- 図書委員会 —— 図書コーナーの管理、読書啓発など
- 体育委員会 —— 新村体育協会と協力

#### 1 10月の新村地区市民運動会、11月の新村文化祭の開催

#### 2 公民館報(新の里)の発行

昭和25年(1950)に、あらゆる生活に関係ある記録の載せて発刊され、現在は隔月で発刊されています。

#### 3 公民館だより「ものぐさ」の発行

公民館講座やイベントの情報を毎月紹介しています。



↑ 新村文化祭



↑ 公民館報の紙面

## 福祉ひろば

「福祉ひろば」は、地域の人々のふれあいの場として、平成8年（1996）に開設されました。地域の人々が生き生きと過ごせるように福祉の拠点として、健康づくりや生きがいづくりの活動をしています。

### 1 「(出張) ふれあい健康教室」の開催

当番町会の皆さんと高齢者の方がレクリエーションや脳トレをしたり、保育園児との交流会などでふれあいを楽しんでいます。

### 2 メンズサロン「パティオ・にいむら」の開催

住民有志が立ち上げた男性だけのサロンで、福祉ひろばを拠点に月1回程度開催しています。音楽を流し、おいしいコーヒーを飲みながら、男性同士が気軽に語り合える場となっています。



↑ ふれあい健康教室



↑ パティオ・にいむら

## 子どもを育む活動

### 1 子育てサークル「ひよこの会」

地域の子育て中のママさんの情報交換や子どもの新しい友達づくりの場として、昭和62年（1987）に発足し活動しています。

### 2 ホタルを育む会

芝沢小学校のせせらぎに飼育したホタルの幼虫を放し、6月下旬頃からホタルが飛び交う光景が見られます。



↑ ひよこの会

### 3 公民館「寺子屋」の開催

小学校の子ども達が夏休みの2日間、地域の先生や松本大学の学生と宿題をしたり、レクリエーションを楽しみながら交流します。

**ものぐさ会** 各団体では参加者を募集しています。希望者は公民館または福祉ひろばまで連絡を。

ものぐさ会（公民館登録団体）として、リ・ボーン<sup>とうろく</sup>の会、絵てがみサークル、新村陶芸クラブ、土楽会、新村コーラス、ハーモニックC、マーブルの会、お茶を楽しむ会、さわらびの会、リズム体操、くれき句会、いきいきヨーガ、フィットナチュール、スポーツ吹き矢アルプス支部新村、ひよこの会、新村囲碁クラブ、あすなろ会、紙遊びの会などが活動しています。

## 各種団体の活動

### 1 プチ送迎ボランティア

「お医者さんに行きたい」「買い物に行きたい」「車が無い」「歩くのが辛い」、そんな皆さんを地域の力で支え合う思いから、平成22年（2010）に立ち上がりました。お年寄りの自宅から一定のエリア内のお医者さんやスーパーなどに送迎する、新村地区独自のボランティアシステムです。平成29年（2017）には総務大臣表彰<sup>そうむだいにんひょうしょう</sup>を受けるなど、その活動は輝いています。



↑ 共助の気持ちで

### 2 ものぐさ大学

地区住民が公民館や福祉ひろばと協働<sup>きょうどう</sup>し、講座の内容を自分たちで考える組織として平成15年（2003）に発足しました。現在は、「自然観察会」や「大人の社会見学」、市内35地区を巡る「おでかけウォーキング」などを開催しています。

### 3 新村体育協会

昭和22年（1947）に公民館活動での体育やレクリエーションを担当する目的で設立されました。昭和25年（1950）にはスポーツを通じた社会教育での活躍<sup>けんか</sup>で、県下初の文部大臣表彰<sup>もんぶだいじんひょうしょう</sup>を受けました。昭和32年（1957）に地域の皆さんの体力向上と健康増進<sup>けんこうぞうしん</sup>を目的に再結成<sup>さいけつせい</sup>され、子どもから高齢者まで気軽に参加できることを目標にスポーツ活動をしています。各種競技大会、ニュースポーツ大会、元旦マラソンなどを開催しています。

### 4 新村文化財保存会

平成23年（2011）に『新村誌』を編集・執筆<sup>しつぱつ</sup>した8名が発起人<sup>ほっきにん</sup>となり、新村文化財保存会を立ち上げました。新村地区内の文化財調査・資料の作成や文化財案内板<sup>ひょうちゅう</sup>（標柱）設置、住民との史跡めぐりや講座などを開催しています。

### 5 あたらしの郷協議会

さまざまな地域課題を解決するために、関係する団体等（32団体）が「地域の課題を把握し共有して安心して暮らせる地域づくり」を目的に、平成27年（2015）に設立されました。協議会は下記の専門部会により構成され、定期的に意見交換や活動を行っています。

地域振興部会 <sup>しんこう</sup>	——	地域活性化の検討、地域課題の把握など
安全安心部会	——	防災や地域見守り活動、安全安心な地域環境整備など
いきいき部会	——	地域福祉の向上、生きがい健康づくりなど
学びの友部会	——	伝統と文化の継承 <sup>けいしょう</sup> 活動、世代間交流 <sup>せだいかんこうりゅう</sup> 活動など

## 4 新村の文化財・祭りは…

### 神社

#### 1 岩崎神社

岩崎神社は諏訪大社の御祭神を奉祭しています。古くは新村地区の開発に関わりの深い神を祀っていたと思われます。現在の地に仁寿3年(853)鎮座したと伝えられています。旧梓川村岩岡の火打岩明神の鎮座する岩頭が地底で岩崎明神の鎮座する岩頭と一つになり、神社本殿の下には「岩の先」があると伝えられています。かつて境内末社として、猿田彦社、山神社、秋葉社、八王子社が祀られていました。蚕神社は現在も祀られています。



↑ 岩崎神社本殿

#### 2 川干しの神事

岩崎神社の本祭り(4月29日)の早朝に、神主が氏子総代を先導して栗林堰の取り入れ口に行き、御神酒で川を清め、水を止めて干してある川に入ります。そして、手掴みで魚を捕ります。神事で捕った魚のうち6匹は神前に奉納する品々のうち第一番で、おそなえの中央に置かれます。川干しの神事は全国的にも珍しいと言われています。今は新村堰でこの神事を行っています。



↑ 手掴みでの魚捕り

#### 3 小野神社

信濃二の宮小野神社(塩尻市)御分霊を奉斎し、現在の地に岩崎神社と同年代の仁寿3年(853)頃に鎮座したと伝えられています。境内には、山王社をはじめ蚕神社、秋葉社、八王子社、山神社(石碑)などが、末社として祀られています。例祭時の打ち上げ花火は特に名高く、子どもたちの神輿が町内を練り歩き、氏子が全員揃っての賑やかな秋祭りです。



↑ 小野神社本殿

#### 4 夏越の祓「茅の輪くぐり」

鳥居に設けられた「茅の輪」をくぐることで罪や穢れを拭い去り、無病息災にして悪疫を免れ、心身ともに清らかになります。毎年6月下旬に行われ、小野神社でも行われています。



26 ↑ 岩崎神社の茅の輪

### 寺院

#### 浄土宗 三名山 専称寺

南新安塚古墳群の東端に、専称寺があります。専称寺は永禄元年(1558)北新村中村に創建と伝えられています。延享2年(1745)に北新村から現在地にうつされました。表参道は高綱道につながり真直ぐで長いです。

#### 1 山門

新寺を東向きに建設したため、彼岸に本堂の前に立つと開かれた山門の中央から太陽が登り、東方に朝日の輝きを見ることができます。西からは極楽浄土の夕日がさします。

専称寺の境内本堂横には立川流の宮大工「輪湖和藤治」が手掛けたといわれる立派な鐘楼があります。



↑ 彼岸の朝日が昇る  
専称寺山門

#### 2 本堂

専称寺の本堂は10間×10間の大寺です。20数本に及ぶ太い柱は北新村から現在地に移築された時のものです。また、新村地区で廃仏毀釈に遭わなかった唯一の寺です。

本堂には阿弥陀如来、薬師如来、子安地藏尊、子育て吞龍上人などが安置されています。



↑ 専称寺本堂

吞龍上人は浄土宗の僧です。昭和の初め群馬県大光院より吞龍上人を勧請したことから、当山を吞龍様とも呼びます。4月の大祭には色々な催しがあり、近在からも大勢の参拝者が集まる大変賑やかなお祭りだったといわれています。また、信州七福神巡りの一寺として弁財天を祀っています。

文化13年(1816)に江戸から徳本上人が専称寺にきて法話を行いました。法話を聞きに来た人は5300人もいたといわれています。境内には大きな徳本念仏塔があります。新村地区には、専称寺、上新西、北新中、下新北、下新南と5基あります。

#### 3 北向観音堂

北向観音堂には十一面観音が祀られ、松本三十三か所観音霊場の十九番札所となっています。



↑ 北向観音堂

## 祝殿

古来より日本人は山や海、樹木、岩など、あらゆるものに神が宿ると考えてきました。「八百万の神々」という言葉も、そうした日本人の魂や心のあり方と切り離せないものがあると思います。特別に意識せずとも神様と向かい合う行為を古来より繰り返してきた私たちにとって、神様を知ることが自らの起源を知ることにも通じるといわれます。



北新西 体鈿社

私たちの身近な生活のなかにも、屋敷神・同族神などといって先祖代々から多くの神々が受け継がれて祀られてきました。屋敷神・同族神などは屋敷の一角や、屋敷に接した田畑や山林の祠で祀られています。一般に祝殿と呼ばれています。

北新西の体鈿祭の祭事は旧暦9月19日と決まっていますが、神主や同姓の都合で毎年変わります。当屋(当番の家)は毎年順番で廻し、鳥居の両側に幟を立て神事を行い、御神酒を頂き終了です。



下新南 諏訪明神

下新南諏訪明神の祭りの始まりは正確にはわかりませんが、社からは「元禄十三年(1700)明和七年(1770)」と書かれた木札が見つかりました。当日は境内を清掃し、幟を立て連縄張を行い、夕方神事を行います。

北新中の御崎荒神様の祭事は旧正月元旦を祭日と定めています。明治36年(1903)同姓で御神名「阿修羅御崎荒神」を鎮守の神様として奉り、永く子孫に至るまで守護神として信仰するとし、宅地内の西南の地に設け奉安されています。



北新中 御崎荒神

## 史跡・遺跡・遺物

### 1 安塚第6号古墳(松本市特別史跡)

写真の古墳は、昭和53年(1978)ほ場整備事業の際、9基の古墳が発掘されたうちの1基です。入り口は南向きで石室は前室・中室・後室の3室に仕切られています。須恵器・土師器が出土しましたが、完形品は少なく大部分が破片でした。後室に少量の人骨が発見され、土器以外の副葬品は発見されませんでした。これらの古墳は古墳時代末期の古墳で、現地に復元されています。



現地復元された安塚第6号古墳

### 2 秋葉原第1号古墳(松本市特別史跡)

この古墳は、昭和57年(1982)のほ場整備事業の際、5基発見されたうちの1基です。古墳時代末期に構築された古墳といわれ、発掘で南に向いて開口する横穴式石室と古墳をめぐる溝が見つかりました。石室はすべて梓川の川原石が使われ、石室内に2体分の人骨が残っていたそうです。周りの溝から8世紀前半の土器がまとまって出土しました。元の位置は約80メートル南東の田の中にあり、南向きに入口があったものを東向きに移築復元しました。

### 3 新村遺跡

松本大学の建設に先立って平成12年(2000)に発掘調査が行なわれました。奈良時代から中世にかけての生活址が発見され、今まで不明だった新村の古代・中世がみえてきました。竪穴式住居址48軒、堀立柱建物址9棟などが見つかりました。中世の建物址1棟は、松本市では最大級とのことでした。

### 4 北新のビャクシン(松本市特別天然記念物)

高さ15メートル、目通り(目の高さの直径)80センチメートルあります。手入れ後、樹勢を増しました。松本市を代表する巨木です。



ビャクシンの巨木

### 5 新村で最も古い銘のある板碑の出土

昭和7年(1932)下新上手町の屋敷から3面の板碑が出土しました。板碑とは死者の追善や供養の目的で建てられた卒塔婆で、緑色の石に仏像や梵字が刻まれ、うち一面に「貞和三年(1347)四月十三日」の銘が刻まれています。銘のある板碑は松本市では唯一です。



市内唯一の板碑

## 石造物

### 1 道祖神

道祖神は、道陸神、さへの神などと、いろいろの言われ方があります。もっとも身近でなんでも聞いてくれる神として信仰されてきました。旅、道の神であり村境を守り、悪魔や悪病を払う神として、村境や道端などに建てられています。地区内の道祖神をみると、文字碑は道祖神と刻まれ、像では双体像、祝言跪坐像、道祖神の両脇に陽石、陰石を祀ったものがあります。



↑ 東新道祖神（双体像）



↑ 「明治丙午年建立 東新  
明治39年（1906）」



↑ 高家村石工 大谷治光

### 2 馬頭観音

馬頭観音は、六観音のひとつです。像の頭の上に馬の頭を乗せていることから馬頭観音といわれています。農家では農耕馬の安全を祈り、死んだ馬の冥福を祈るため、馬頭観音は造られたといわれています。



↑ 上新馬頭観音群（観世音群）

### 3 観世音菩薩

観世音菩薩は、観自在菩薩ともいい慈悲をつかさどります。下新北の観世音菩薩像は樽木川が氾濫したときに橋が流されるなど多くの被害が出て、それを弔うために造られました。碑文に、「一仏浄土六十六部 宝暦七年十月日（1757）橋供養佛武州江戸 牛込谷町願主 大和屋 九助」とあり、江戸の九助が橋供養に建てたものです。



↑ 下新北 観世音菩薩像

## ものぐさ太郎音頭

平成15年（2003）、若い世代や子どもたちからも親しまれる歌を制作しようと、「新村イメージソング制作実行委員会」が発足しました。同委員会は物ぐさ太郎にまつわる歌と新村の豊かな自然・風景・情景などを織り込んだ歌詞を募集しました。「ものぐさ太郎音頭」は応募作品の一曲で、その他の応募作品と一緒に「新村の歌」として平成16年（2004）にCD化・発売されました。平成16年7月31日に「新村音楽祭」が開かれ、「ものぐさ太郎音頭」の踊りが婦人会の皆さんにより披露されました。

## ものぐさ太郎祭り

平成と年号が変わって間もなくの頃、物ぐさ太郎遺跡地をもっと見栄えのある場所にしたいという気運が盛り上がりました。遺跡地を2倍に広げ、そこへ洞沢今朝夫作の物ぐさ太郎像と折口信夫の歌碑を建てることになりました。

平成3年（1991）11月17日、盛大な記念式典（竣工・除幕式）が行われました。来賓や住民約500人が集まりました。民謡クラブの祝歌奉納、煙火の打ち上げ、紅白の祝餅を投げて竣工を祝いました。これが1回目のものぐさ太郎祭りです。



↑ ものぐさ太郎音頭を踊るようす

## ものぐさ太郎音頭

作詞 新村 芳男 作曲 小松 一栄

- 1 オーイ ものぐさ 太郎さん ソレ ヨイトナ  
せせらぎのおと ここちよく 里をうるおし  
若葉がつつむ サクラの花びら 浴びながら  
〈※くりかえし〉 つどい かたらい 歌うたう  
ソリヤ イイジ ソウダジ 太郎さん
- 2 オーイ ゆめみる 太郎さん それヨイトナ  
木陰の清風 こしおろし ホタルとびかう  
里にと願う 子供らも燕も いきいきと  
〈※くりかえし〉
- 3 オーイ おいらが 太郎さん ソレ ヨイトナ  
稲穂もたわわ こがねいろ ゆたかな里に  
想いをよせる もみじの紅 たのしんで  
〈※くりかえし〉
- 4 オーイ こころの 太郎さん ソレ ヨイトナ  
白くかがやく アルプスに 新たなおもい  
願いをこめて ふくらむ餅と笑い声  
〈※くりかえし〉



↑ 紅白の祝餅投げ

その後、年々大勢の地区の人々が集い、楽しい祭りが執り行われ、「ものぐさ太郎音頭」も踊られるようになりました。緑色の法被も用意され、催し物を行うのに地区外から呼んだり、投げ餅の数を増やしたり、祭事を改めたり工夫を重ねてきました。コロナ禍の令和3年（2021）の第31回ものぐさ太郎祭りは、祭事だけ行われました。地区住民自らの手による楽しい祭りをしよう、それを伝統にしようという声が出始めています。



## 新村音頭

昭和29年(1954)「合併で村の名前が消える！」と  
 村長ら地域愛に燃える有志が知恵を絞って誕生したのが  
 新村音頭です。

作詞西原比呂志、作曲三木鶏郎、振付花柳太衛蔵らにより  
 立派な民謡となり、盛大に発表会も開催されました。

盆踊りや運動会・文化祭で新村音頭は本当に愛され踊ら  
 れましたが、若者らは都市へ流失し、青年団や婦人会の活  
 躍する行事の衰退で新村音頭を保存するのが精一杯とな  
 りました。

しかし、近年では住民有志が中心となって復活に力を入れ、練習に励んでいます。新村音頭は、  
 優秀な民謡として放送局の電波に乗り、信越地方の各家庭のラジオに流れました。

作詞者西原比呂志は安塚の出身で、本名は周蔵。明治44年(1911)6月8日生まれで  
 す。旧制松本中学(現：松本深志高校)卒業。若い頃から画家を志し、帝展(現在の日展)に度々  
 入選、「第二紀会」という創造的な個性を主張する美術団体に属していました。童画家、挿絵画  
 家として活躍されました。平成22年(2010年)に亡くなりました。



↑ 西原比呂志の表紙絵

## 5 その他

### 松本大学との交流

松本大学の前身である松商学園短期大学は、  
 昭和52年(1977)に新村小学校跡地に  
 移転してきました。当時、小学校跡地の活用につ  
 いて、地区として「公民館活動など社会教育  
 の場にしたい」という強い意向がありましたが、  
 学園関係者側と行政側で話し合いを重ねる  
 なかで、条件付きで移転が合意されました。



↑ 学生は地域の宝

平成10年(1998)頃から地元の婦人会  
 と学生との交流が始まったこと、活発な公民  
 館活動をきっかけに、地区と大学は密接に  
 連携して事業などを展開するようになりました。  
 特に婦人会の有志が学生をお茶に招いた  
 り、時には叱咤激励をするなど、公民館活動  
 を通じて積極的に交流をするなかで学生と住民  
 との理解が芽生えてきました。



↑ 住民と学生の語らい

平成28年(2016)には、大学と地域が「包括連携協定」を結び、今まで以上に多くの  
 学生との交流が図られるようになりました。現在でも地域行事や公民館事業などに学生が積極  
 的に参加しており、地域住民との交流を深めています。

2  
 10  
 番  
 まで  
 続  
 く

ホントダジ	ヨイヨイヨイヤサ	手拍子そろへて	ホントダジ	ヨイヨイヨイヤサ	ホレ	イヤジ	ソウダジ	ハアアア	1	新村音頭
松の風	アヲ	想い岩崎	想い岩崎	人恋う瞳よ	村の乙女の	ハアアア	ハアアア	ハアアア	1	新村音頭
作曲 三木 鶏郎	作曲 西原 比呂志	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎	作曲 三木 鶏郎



↑ 新村音頭の練習に励む皆さん



↑ 西原比呂志の挿絵



↑ 市民運動会にて



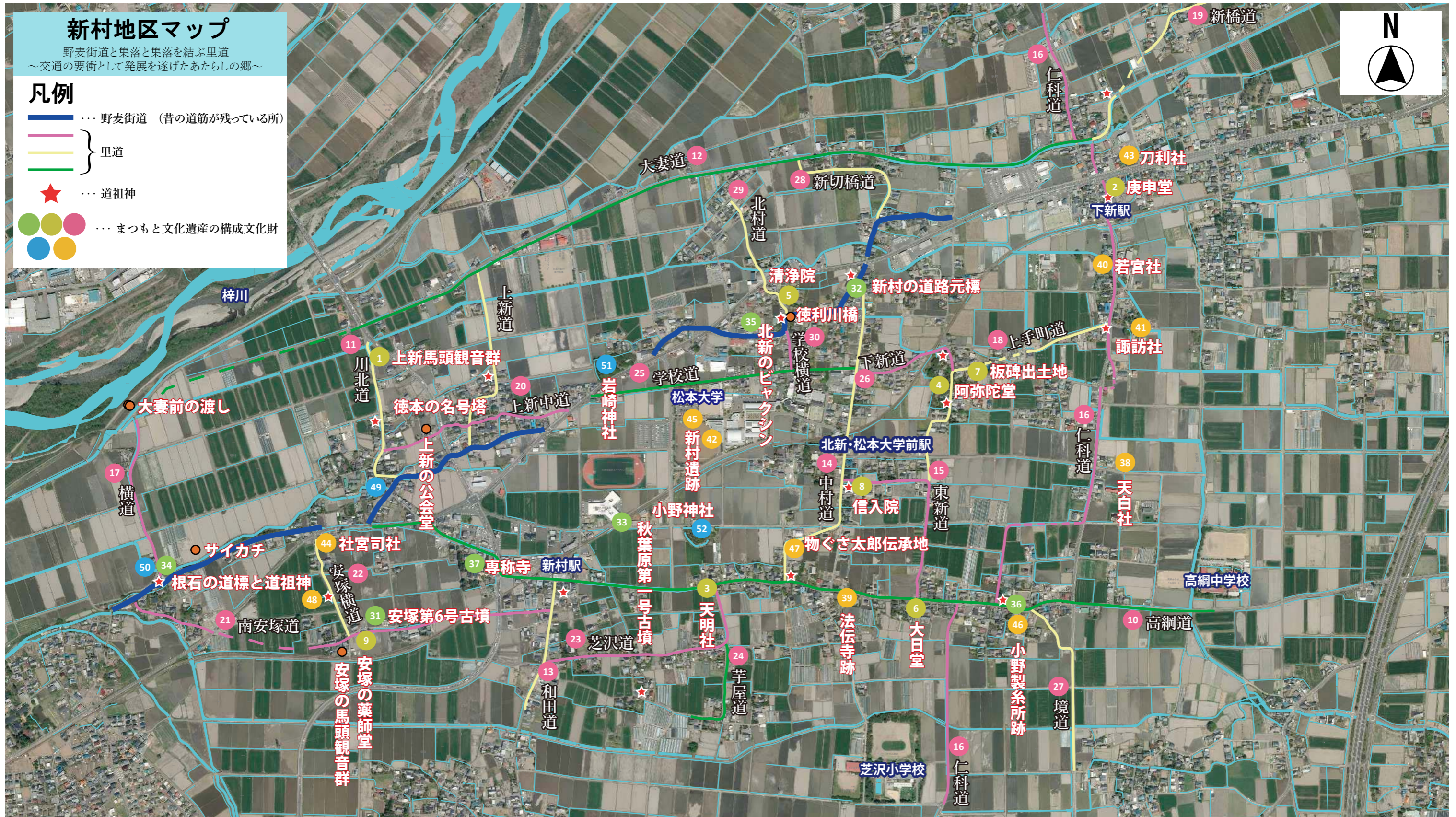
↑ 新村文化祭にて

# 新村地区マップ

野麦街道と集落と集落を結ぶ里道  
～交通の要衝として発展を遂げたあたらしの郷～

## 凡例

- … 野麦街道 (昔の道筋が残っている所)
- } 里道
- }
- ★ … 道祖神
- ● ● ● … まつもと文化遺産の構成文化財



- ① 上新馬頭観音群 (かみにいばとうかんのんぐん)
- ② 庚申堂 (こうしんどう)
- ③ 天明社 (てんめいしゃ)
- ④ 阿弥陀堂 (あみだどう)
- ⑤ 清浄院 (しょうじょういん)
- ⑥ 大日堂 (だいにちどう)
- ⑦ 貞和の板碑 (じょうわのいたび)
- ⑧ 信入院 (しんにゅういん)
- ⑨ 安塚の薬師堂 (やすづかのやくしどう)
- ⑩ 高綱道 (たかつなみち)

- ⑪ 川北道 (かわきたみち)
- ⑫ 大妻道 (おおづまみち)
- ⑬ 和田道 (わだみち)
- ⑭ 中村道 (なかむらみち)
- ⑮ 東新道 (ひがしにいみち)
- ⑯ 仁科道 (にしなみち)
- ⑰ 横道 (よこみち)
- ⑱ 上手町道 (わでまちみち)
- ⑲ 新橋道 (しんばしみち)
- ⑳ 上新中道 (かみにいなかみち)

- ㉑ 南安塚道 (みなみやすづかみち)
- ㉒ 安塚横道 (やすづかよこみち)
- ㉓ 芝沢道 (しばざわみち)
- ㉔ 芋屋道 (いもやみち)
- ㉕ 学校道 (がっこうみち)
- ㉖ 下新道 (しもにいみち)
- ㉗ 境道 (さかいみち)
- ㉘ 新切橋道 (しんきりばしみち)
- ㉙ 北村道 (きたむらみち)
- ㉚ 学校道 (がっこうみち)

- ㉛ 安塚第6号古墳 (やすづかだいろくごうこふん)
- ㉜ 新村的道路元標 (にいむらのどうろげんびょう)
- ㉝ 秋葉原第1号古墳 (あきはばらだいちごうこふん)
- ㉞ 根石の道標と道祖神 (ねいしのどうひょうとどうそじん)
- ㉟ 北新のビヤクシン (きたにいのびやくしん)
- ㊱ 東新の道標 (ひがしにいのどうひょう)
- ㊲ 三明山専称寺 (さんみょうざんせんしょうじ)
- ㊳ 天白社 (てんぱくしゃ)
- ㊴ 新村小学校発祥の地 (にいむらしょうがっこうはつしょうのち)
- ㊵ 若宮社 (わかみやしゃ)

- ㊶ 諏訪社 (すわしゃ)
- ㊷ 新村遺跡発掘現場 (にいむらいせきはくつげんば)
- ㊸ 刀利社 (とうりしゃ)
- ㊹ 社宮寺社 (しゃぐじしゃ)
- ㊺ 新村遺跡 (にいむらいせき)
- ㊻ 小野製糸所跡 (おのせいしじょあと)
- ㊼ 物ぐさ太郎伝承地 (ものぐさたろうでんしょうち)
- ㊽ 新村堰上新分水工 (にいむらせきかみにいぶんすいこう)
- ㊾ 新村堰上流 (にいむらせきじょうりゅう)

- ㊿ 岩崎神社 (いわさきじんしゃ)
- ① 小野神社 (おのじんしゃ)

詳しくは「まつもと文化遺産パンフレット」でご確認ください。新村地区地域づくりセンターで無料でお渡しができます。